京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　2023-7

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　二〇二三-七

平安京左京六条二坊七町跡・
烏丸綾小路遺跡

平安京左京六条二坊七町跡・烏丸綾小路遺跡

2024年

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

平安京左京六条二坊七町跡・
烏丸綾小路遺跡

2024年

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

序　　文

京都市内には、いにしえの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、（仮称）京都市下京区柿本町（五条堀川）計画の工事に伴う平安京跡・烏丸綾小路遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

令和６年６月

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

所　長　　井　上　満　郎

例　　言

1	遺　跡　名	平安京跡・烏丸綾小路遺跡　（京都市番号　23Ｈ119）
2	調査所在地	京都市下京区五条通堀川西入柿本町567番地他
3	委　託　者	信和建設株式会社
4	調 査 期 間	2023年６月１日～2023年９月22日
5	調 査 面 積	635.5㎡
6	調査担当者	早見由槻・布川豊治・松吉祐希
7	使 用 地 図	京都市発行の都市計画基本図（縮尺１：2,500）「島原」を参考にし、作成した。
8	使用測地系	世界測地系　平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
9	使 用 標 高	T.P.：東京湾平均海面高度
10	使用土色名	農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』に準じた。
11	遺 構 番 号	調査区ごとに、１区は１番から、２区は2001番から、３区は3001番から通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
12	遺 物 番 号	種類ごとに通し番号を付し、写真番号も同一とした。
13	本 書 作 成	早見由槻
14	備　　考	上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。

（調査地点図）

目　　次

１．調査経過 …… 1
（１）調査に至る経緯 …… 1
（２）調査の経過 …… 1
２．位置と環境 …… 4
（１）歴史的環境と立地 …… 4
（２）周辺の調査 …… 4
３．遺　　構 …… 8
（１）基本層序 …… 8
（２）遺構の概要 …… 8
（３）平安時代の遺構 …… 9
（４）鎌倉時代の遺構 …… 10
（５）室町時代の遺構 …… 11
（６）江戸時代の遺構 …… 12
（７）近現代の遺構 …… 13
４．遺　　物 …… 14
（１）遺物の概要 …… 14
（２）土器類 …… 14
（３）瓦類 …… 17
（４）石製品 …… 17
（５）金属製品・銭貨 …… 17
５．ま と め …… 19

図　版　目　次

図版１　遺構　遺構平面図（１：200）
図版２　遺構　調査区北壁・東壁断面図（１：100）
図版３　遺構　掘立柱建物２、柱穴列６・７実測図（１：80、１：40）
図版４　遺構　掘立柱建物１、柱穴列10実測図（１：40）
図版５　遺構　土坑124・2119、井戸80・2161実測図（１：30、１：60）
図版６　遺構　集石遺構2249、土坑114実測図（１：50、１：20）
図版７　遺構　井戸55・2110・100・125実測図（１：50、１：80）
図版８　遺構　室84・井戸93実測図（１：50、１：30）
図版９　遺物　土器実測図１（１：４）
図版10　遺物　土器実測図２（１：４）
図版11　遺物　土器実測図３（１：４、151のみ１：８）
図版12　遺物　土器実測図４（１：４）
図版13　遺物　土器実測図５（１：４）、土製品実測図（１：２）
図版14　遺物　瓦類拓影及び実測図１（１：４）
図版15　遺物　瓦類拓影及び実測図２（１：４）
図版16　遺物　瓦類拓影及び実測図３（１：４）
図版17　遺物　石製品実測図（１：４）、金属製品実測図・銭貨拓影（１：２、銭９・10のみ１：１）
図版18　遺構　１　調査区東半全景（北西から）
　　２　調査区西半全景（北から）
図版19　遺構　１　掘立柱建物２（西から）
　　２　掘立柱建物１、柱穴列（南西から）
図版20　遺構　１　土坑124（東から）
　　２　土坑114（東から）
　　３　集石遺構2249（南から）
図版21　遺構　１　土坑98（東から）
　　２　土坑99（東から）
　　３　井戸55（北西から）
　　４　井戸2108（西から）
図版22　遺構　１　室84（北東から）
　　２　井戸93（北から）
図版23　遺物　出土土器・土製品
図版24　遺物　出土軒瓦・石製品・銭貨

挿　図　目　次

図１　調査地位置図（１：5,000）　……　1
図２　調査区配置図（１：400）……　2
図３　調査前全景（南西から）　……　3
図４　調査前全景（北西から）　……　3
図５　調査区西側（１区）重機掘削（南から）　……　3
図６　調査区西側（１区）作業状況（南から）　……　3
図７　調査区東側（２区）作業状況（北東から）　……　3
図８　調査区南側（３区）作業状況（北西から）　……　3
図９　調査終了後全景（南西から）　……　3
図10　調査終了後全景（北東から）　……　3
図11　周辺調査位置図（１：5,000）……　5
図12　土坑2107実測図（１：40）　……　9
図13　井戸2108、室2044実測図（１：50）　……　12
図14　遺構変遷図（１：300）　……　20

表　目　次

表１　遺構概要表　……　8
表２　遺物概要表　……　14

付　表　目　次

付表１　土器類・土製品観察表　……　22
付表２　瓦類観察表　……　27
付表３　石製品観察表　……　29
付表４　金属製品観察表　……　29
付表５　銭貨観察表　……　29

平安京左京六条二坊七町跡・烏丸綾小路遺跡

１．調査経過

（１）調査に至る経緯

調査地は京都市下京区五条通堀川西入柿本町567番地他に位置する。（仮称）京都市下京区柿本町（五条堀川）計画の工事に伴い、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という）より事業者へ発掘調査の指導がなされたため、事業者より委託を受けた公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が発掘調査を行った。

（２）調査の経過

調査は令和５年（2023）６月１日より開始した。

排土置き場を確保し調査を安全に進行するため、文化財保護課の指示に従い、調査地西側に１区・東側に２区・南側入り口付近に３区の計３区を設定し、反転調査を行った。各区面積及び総面積は、１区338.9㎡・２区274.7㎡・３区21.9㎡の計635.5㎡である。調査は１区・２区・３区の順で行い、重機による各区埋め戻し作業と次区表土掘削作業を並行して行った。遺構の検出及び掘削は人力で行い、土坑・柱穴・井戸・掘立柱建物などを検出した。

図１　調査地位置図（１：5,000）

図２　調査区配置図（１：400）

遺構検出後は平面図の作図及び写真撮影、測量（写真測量）などの記録作業を行った。

１区で検出した遺構には１番から、２区では2001番から、３区では3001番から遺構番号を付した。なお、今回の調査では調査区が隣接するため、以降文中では調査区の区別は付けずに１つの調査区として扱う。

また、座標X=－111,268以南においては、既存建物の基礎による攪乱が激しく、攪乱層を除去した時点で基盤層を検出した。そのため、一部基盤層を掘り込んだものを除き、遺構が検出されなかった。攪乱層は基盤層を約0.5ｍ以上掘り込んでおり、調査区北部と南部の間に段差がある。

調査中は適宜、文化財保護課の検査及び検証委員である京都市立芸術大学の畑中英二教授による検証を受けた。

図３　調査前全景（南西から）

図４　調査前全景（北西から）

図５　調査区西側（１区）重機掘削（南から）

図６　調査区西側（１区）作業状況（南から）

図７　調査区東側（２区）作業状況（北東から）

図８　調査区南側（３区）作業状況（北西から）

図９　調査終了後全景（南西から）

図10　調査終了後全景（北東から）

２．位置と環境

（１）歴史的環境と立地

当該地は平安京左京六条二坊七町の南東に位置し、弥生時代から古墳時代の集落跡である烏丸綾小路遺跡の範囲内である。

平安時代の左京六条二坊には貴族や官人の邸宅地が存在したことが文献からわかるものの[1)]、左京六条二坊七町の様子を直接記したものは確認できない。

室町時代初頭の貞和元年（1345）に鎌倉より本圀寺が遷移して以降は本圀寺旧境内北半部にあたり[2)]、江戸時代後半以降は塔頭及び檀林があったとされる[3)]。また、本圀寺境内での塔頭の位置は、天文法華の乱や天明の大火からの復旧などで度々変化したようだが、少なくとも1920年代から1960年代の本圀寺の山科移転まで、当地北半には本圀寺塔頭「多門院」が所在した[4)]。

本圀寺の山科移転後は商業ビルが存在し、その解体を経て調査に至る。

（２）周辺の調査（図11）

周辺の調査成果は以下の通りである

１では調査区全域で室町時代後期の遺物包含層を検出した。

２では中世末から近世初頭の遺物包含層と近・現代の土坑を検出した。

３では鎌倉時代の落ち込み・土坑、平安時代末から鎌倉時代の遺物包含層を検出した。また、調査区の西側、現在の堀川通側では地表下0.3ｍで氾濫堆積層を検出した。

４では古墳時代の遺物を含む流れ堆積を検出した。

５では平安時代の六条坊門小路南側溝を検出した。全調査区で室町時代から桃山時代の濠を検出している。その他、古墳時代から桃山時代にかけての遺構を検出している。遺物は室町時代のものが大半を占める。

６では弥生時代から江戸時代に至るまでの遺構・遺物を検出した。弥生時代には北東から南西に流れる自然流路があったとみられる。また、平安時代の井戸が検出され、平安時代には生活空間になっていたと考えられる。鎌倉時代（13世紀前葉から14世紀中様）には土壙墓とみられる土坑が多く検出している。このような土坑を削平する14世紀後葉以降の掘立柱建物を検出しており、本圀寺がこの地に移転してきた時期と符合する。江戸時代の遺構からは、仏花器や香炉など寺院に関わる遺物が多く出土している。

７では平安時代から江戸時代の遺構を検出した。また、土壙墓と推測される遺構も検出している。安土桃山時代から江戸時代の土坑からは多量の遺物が出土した。

８では室町時代後期の池や景石を検出した。西拡張区では南北方向の濠を検出した。

９では平安時代から江戸時代にかけての遺構・遺物を大量に検出したことから、当地域の変遷が明らかとなった。いずれの時代でも建物跡・井戸・溝を検出した。中世から江戸時代の遺物が大

半を占める。

10では弥生時代の流路と鎌倉時代の土坑を検出した。

11では平安時代から近世の遺構を多数検出した。特に近世の土壙墓が多数検出され、人骨が約15体出土している。弥生土器も少量出土した。

12では調査区全域で中世から近世にかけての堀川を検出した。

13では弥生時代後期以降・古墳時代以前の氾濫堆積物で形成された基盤層が確認し、弥生時代後期から近世にかけての遺構・遺物を検出した。遺構・遺物の出土状況から本格的な土地利用は11世紀末からと考えられ、文献史料で確認できる状況とは不整合であると報告されている。また、15世紀後半から17世紀中葉までの遺構は少ない。なお、調査では中世のウマの全身が埋葬された遺構が初めて検出された。調査区南東の確認トレンチでは、油小路東側溝と考えられる溝を検出している。

14では近世の路面を検出した。東側調査区の猪熊通では中世路面も確認している。

15では六条坊門小路南側溝を検出した。この側溝は20回近く掘りなおしたことが確認されている。

16では弥生時代の落込みを検出し、弥生土器が出土している。また、平安時代後期から鎌倉時代の土坑、平安時代末の遺物包含層を検出した。鎌倉時代の土坑からは土師器皿が多量に出土した。

図11　周辺調査位置図（1：5,000）

17では北東から南西にかけて流れる大きな流路を検出し、弥生時代前期末から中期前半、弥生時代後期末から古墳時代前期初頭の遺物が出土した。その他、平安時代の土坑・柱穴、鎌倉時代から室町時代の溝・土坑・柱穴を検出した。

18では平安時代から室町時代の土坑、江戸時代の井戸を検出した。

19では弥生時代から江戸時代にかけて遺構・遺物を検出した。竪穴建物や方形周溝墓をまとまって検出しており、弥生時代前期末から中期後葉の集落跡とみられる。

20では古墳時代の流路を検出した。その他、平安時代の建物跡・柵・井戸、鎌倉・室町時代の多数の柱穴を検出した。なお、室町時代の柵列が、四行八門の復元線に重なる平安時代の柵列を踏襲しており注目される。

21では弥生時代後期以降・古墳時代以前の氾濫堆積物で形成された基盤層が確認され、本格的な土地利用は11世紀前半に位置づけられる。調査区北西隅で、３期の変遷が見られる平安時代後期の池跡を検出しているが、全容は不明である。景石・洲浜も設置されたが、12世紀初頭には埋められ整地されている。その後遺構が希薄となるが、16世紀後半頃から遺構が再び出現する。南に接する調査11と異なり、近世の墓や寺院の存在を示すものが全く発見されなかった。

註

１）「醒泉学区」『史料 京都の歴史第12巻　下京区』 學藝書林　1971年
山田邦和「第三章 左京と右京　左京六条二坊」『平安京提要』 角川書店　1994年

２）『日本歴史地名大系第27巻　京都市の地名』 平凡社　1979年の「柿本町」と「本圀寺跡」、「醒泉学区」『史料 京都の歴史第12巻　下京区』 學藝書林　1971年を参照した。

３）江戸時代後半に描かれたとされる京都文化博物館所蔵の『本圀寺惣境内図』を実見した。

４）立命館大学アートリサーチセンター「近代京都オーバーレイマップ」https://www.arc.ritsumei.ac.jp/archive01/theater/html/ModernKyoto/

参考文献（文献番号は、図11　周辺既往調査位置図の各番号に従う）

1　一覧表のみ『昭和60年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1988年

2　伊藤 潔・網 伸也「21.平安京左京四条二坊六町・六条二坊十町」『昭和55年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2011年

3　近藤章子・吉本健吾「平安京左京六条二坊十町跡、烏丸綾小路遺跡（03HL64）」『京都市内遺跡立会調査概報　平成15年度』 京都市文化市民局　2004年

4　一覧表のみ『京都市内遺跡立会調査概報　平成５年度』 京都市文化市民局　1994年

5　上村和直・本 弥八郎・磯部 勝「16.左京六条二坊」『昭和56年度　京都市埋蔵文化財調査概要（発掘調査編）』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1983年

6　植山 茂・岡 佳子・藤本孝一・南 博史「平安京左京六条二坊二町」『平安京跡研究調査報告第17輯』 財団法人古代學協会　1986年

7　上村和直・吉川義彦「11.左京六条二坊」『昭和57年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1984年

8　辰巳陽一「平安京左京六条二坊十一町・烏丸綾小路遺跡発掘調査報告書」 株式会社文化財サービス 2019年
9　上村和直「25.平安京左京六条二坊五町・猪熊殿跡・本國寺跡」『昭和54年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2012年
10　尾藤徳行・吉村正親「2.烏丸綾小路遺跡・平安京左京六条二坊十二町」『京都市内遺跡立会調査概報 平成７年度』 京都市文化市民局　1996年
11　上村和直「15.平安京左京六条二坊十二町」『昭和52年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2011年
12　原山充志「13.平安京左京六条二坊」『昭和62年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1991年
13　佐藤亜聖・村田裕介・丸山真史「平安京左京六条二坊十四町・烏丸綾小路遺跡」 公益財団法人元興寺文化財研究所　2017年
14　一覧表のみ『昭和55年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2011年
15　上村和直「23.平安京左京六条一坊三・十一・十四町」『昭和54年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2012年
16　一覧表のみ『京都市内遺跡立会調査概報　平成７年度』 京都市文化市民局　1996年
17　上村和直・久世康博「7.平安京左京六条二坊」『昭和59年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1987年
18　一覧表のみ『昭和57年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1984年
19　中谷正和『平安京左京六条二坊九町跡・烏丸綾小路遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2018－10　公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2019年
20　高 正龍「10.平安京左京六条一坊」『平成２年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1994年
21　佐藤亜聖・村田裕介・山口繁生「平安京左京六条二坊十二町跡・烏丸綾小路遺跡」 公益財団法人元興寺文化財研究所　2019年

３．遺　　構

（１）基本層序（図版２）

現地表面の標高は30.7～31.2ｍである。層厚0.5～1.2ｍの現代盛土直下が灰黄褐色シルトおよび砂礫の基盤層となる。調査区北半の一部では、基盤層上面に室町時代の遺物を含む整地層（図版２北壁28～34層）、その上面に江戸時代初頭の遺物を含む整地層（北壁12・13層）が残る。遺構の大半は基盤層上面で検出したが、一部、各整地層上面および整地層掘り下げ中に検出したものが含まれる。

（２）遺構の概要（表１）

遺構の大半は基盤層上面で検出したが、部分的に残る整地層との層位関係や出土遺物から、平安時代、鎌倉時代、室町時代、江戸時代、近現代の遺構に分けられる。

平安時代の遺構としては、掘立柱建物１・２、柱穴列６・７、土坑2107を検出した。

平安時代末から鎌倉時代の遺構としては、柱穴列10、土坑124・2119・2120・2121・2251、井戸80・2161を検出した。

室町時代の遺構としては、井戸55・100・125・2110、土坑98・99・114・122、集石遺構2249を検出した。

江戸時代の遺構としては、室84、井戸93・2108を検出した。

近現代の遺構としては、調査区全体で土取り土坑とそれを転用したと考えられる廃棄土坑（土坑20）、室2044、井戸2050などを検出した。

以下、時代順に主要遺構の概要を述べる。

表１　遺構概要表

時　　代	遺　　構	備　　考
平安時代	掘立柱建物１・２、柱穴列６・７、土坑2107	
鎌倉時代	柱穴列10、土坑124・2119・2120・2121・2251、井戸80・2161	
室町時代	集石遺構2249、土坑98・99・114・122、井戸55・100・125・2110	
江戸時代	室84、井戸93・2108	
近代以降	土坑20、室2044、井戸2050	

（３）平安時代の遺構（図版１・18）

掘立柱建物２（図版３・19）　調査区中央部東半で検出した。東西棟の掘立柱建物と考えられ、梁行１間、桁行３間分を検出した。柱穴2109・2112・2116・2250・2244からなる。柱間は約2.7ｍである。方位はほぼ正方位である。柱穴掘形の平面形は、隅丸方形と円形を呈す。径0.5～1.1ｍ、深さは0.2～0.4ｍある。柱穴2112は断面観察で柱痕跡を確認した。推定の柱径は約0.3ｍである。出土遺物は土師器小片数点のみであるが、柱穴規模や出土土器から、平安時代のものと考えられる。

柱穴列６（図版３・19）　調査区北側中央付近で東西１間分を検出した。柱穴2226・2228からなる。柱間は約1.0ｍである。方位はほぼ正方位である。柱穴掘形の平面形は歪な円形を呈し、径0.35～0.4ｍ、深さは0.2～0.25ｍある。柱穴2226は柱痕跡を検出し、推定の柱径は約0.2ｍである。出土遺物は柱穴2226から土師器細片・緑釉陶器細片・黒色土器細片が少量出土した。平安時代のものと考えられる。

柱穴列７（図版３・19）　柱穴列６の南で東西１間分を検出した。柱穴2215・2253からなる。方位は北に対し西に約１度振れる。柱間は約3.0ｍである。柱穴掘形の平面形は隅丸方形を呈する。柱穴2215は南北約1.2ｍ、東西約1.0ｍ、深さは0.15～0.2ｍある。断面で確認できた柱痕跡から推定される柱径は約0.2ｍある。遺物は出土しなかったが、柱穴規模や埋土から平安時代のものと考えられる。

掘立柱建物１（図版４・19）　調査区北東で検出した。梁行１間、桁行２間の東西棟の掘立柱建物である。柱穴2183・2136・2142・2008・2059・2170からなる。方位はほぼ正方位である。柱間は、梁行が約2.1ｍ、桁行が1.8～1.9ｍである。柱穴掘形の平面形は、隅丸方形と円形を呈す。径0.15～0.4ｍ、深さは0.15～0.2ｍある。柱穴2008・2170は柱痕跡を確認した。推定の柱径は0.15～0.2ｍである。それぞれの柱穴から土師器小片が少量出土した。北西隅の柱穴2008からは平安時代後期のものと考えられる土師器皿が３枚重なった状態で出土した。

また、南辺の柱穴列付近で東西にのびる溝2209を検出したが、掘立柱建物１との関連性は不明である。

土坑2107（図12）　調査区北東東壁寄りで検出した。井戸2161に削平される。残存長は東西約1.0ｍ、南北約0.7ｍ、深さは約1.25ｍある。当初は井戸

図12　土坑2107実測図（１：40）

を想定していたが、底面が湧水層まで達していないことから土坑と判断した。土師器、須恵器、瓦器、輸入陶磁器などが出土した。平安時代後期のものと考えられる。

（４）鎌倉時代の遺構（図版１・18）

柱穴列10（図版４・19）　調査区北東部で南北３間分を検出した。柱穴2080・2070・2061・2194からなる。方位はほぼ正方位である。柱間は0.8～1.1ｍである。柱穴掘形の平面形は隅丸方形と円形を呈し、径0.2～0.3ｍ、深さは0.1～0.2ｍある。遺物は出土しなかったが、柱穴規模や埋土から、鎌倉時代のものと考えられる。

土坑124（図版５・20）　調査区北西部で検出した土器溜状の遺構である。北側を後述する近代の土坑20に削平される。残存部の最大長は東西約1.45ｍ、南北約1.2ｍ、深さは約0.3ｍある。土師器を多量に含み、大半は割れていたが一部正位置で重なった状態で出土した。その他、須恵器、瓦器、焼締陶器、輸入陶磁器、瓦が出土した。鎌倉時代のものと考えられる。

土坑2119（図版５）　調査区中心よりやや東で検出した。土坑2120の南に隣接する。歪な円形を呈し、東西約0.55ｍ、南北約0.6ｍ、深さは約0.3ｍある。ほぼ完形の土師器皿が重なって出土した。他に須恵器、瓦器の小片が出土した。鎌倉時代のものと考えられる。

土坑2120　調査区中心よりやや東で検出した。南に土坑2119、北に土坑2121が存在する。円形を呈し、東西約0.35ｍ、南北約0.5ｍ、深さは約0.2ｍある。土師器が出土した。鎌倉時代のものと考えられる。

土坑2121　調査区中心よりやや東で検出した。南に土坑2020が存在する。円形を呈し、東西約0.55ｍ、南北約0.55ｍ、深さは約0.45ｍある。土師器、瓦器が出土した。鎌倉時代のものと考えられる。

土坑2251　調査区中心やや南で検出した。円形を呈し、東西約1.1ｍ、南北約1.05ｍ、深さは約0.3ｍある。土師器、焼締陶器、輸入陶磁器、銭貨が出土した。

井戸80（図版５）　調査区中央よりやや西で検出した。掘形は円形を呈し、東西約2.4ｍ、南北約2.9ｍ、深さは約2.3ｍある。底面の標高は27.5ｍである。井戸枠材は検出できなかったが、断面５～８層は井戸枠ないしは曲物を据え付けた痕跡の可能性がある。土師器、須恵器、瓦器、焼締陶器、輸入陶磁器が出土した。鎌倉時代のものと考えられる。

井戸2161（図版５）　調査区北東部で検出した。隅丸方形の掘形を持ち、東西約2.5ｍ、南北約2.8ｍある。底面は、重機による断割調査で標高27.52ｍで確認した。掘形及び底面付近から板材が出土しており、木枠の井戸の可能性がある。掘形内部で検出した円形の土坑状の遺構は、断面観察や出土土器に年代幅があることから、井戸2161埋没後に掘り込まれた可能性が考えられる。土師器、須恵器、瓦器、焼締陶器、輸入陶磁器、金属製品、砥石が出土した。鎌倉時代のものと考えられる。

（５）室町時代の遺構（図版１・18）

集石遺構2249（図版６・20）　調査区北側中央で検出した。礫が詰まる土坑状の遺構である。北西部と南は後世の遺構によって削平される。残存部分は不正形である。検出規模は、東西約3.0ｍ、南北約4.5ｍ、深さは約0.5ｍある。拳大～人頭大の石を入れており、地業の一種の可能性がある。遺物は、土師器・須恵器・輸入陶磁器の細片、瓦などが出土しており、鎌倉時代後半から室町時代初頭のものと考えられる。

土坑98（図版21）　調査区北側中央で検出した。集石遺構2249を削平し成立する。平面形は楕円形を呈し、東西約1.0ｍ、南北約0.6ｍである。土師器片が出土した。室町時代前半のものと考えられる。

土坑99（図版21）　調査区北側中央で検出した。集石遺構2249を削平し成立する。残存部は東西約0.9ｍである。土師器皿が複数枚出土した。室町時代前半のものと考えられる。

土坑114（図版６・20）　調査区北側中央で検出した。集石遺構2249を削平し成立する。東西に細長い楕円形を呈し、東西1.6ｍ、南北約0.55ｍ、深さは約0.15ｍある。土師器皿が多量に出土した。大半が割れていたが、一部正位置で重なった状態で出土した。室町時代前半のものと考えられる。遺物の出土状況や土坑形状などから土壙墓の可能性も考えられる。

土坑122（図版２）　調査区中央の北壁際で検出した。北半は調査区外にある。平面形は円形と推測され、径約0.9ｍ、深さは約0.7ｍある。埋土は北壁断面（図版２）14～16層である。大型の焼締陶器甕の下半部が正位置で埋設された状態で出土した。埋甕とみられる。ほかに土師器、須恵器、輸入陶磁器の小片が出土した。室町時代のものと考えられる。

井戸55（図版７・21）　調査区中央で検出した。円形石組井戸である。上部は現代の削平・攪乱の影響を受けている。掘形は円形で径約2.0ｍ、底面は重機による断割調査で標高27.57ｍで確認した。石組は内径で約1.0ｍある。土師器、須恵器、瓦器、輸入陶器などが出土した。室町時代初頭のものと考えられる。

井戸2110（図版７）　調査区南東の壁際で検出した。平面形は円形で、検出規模は東西約2.0ｍ、南北約2.4ｍである。底面は重機による断割調査で標高27.4ｍで確認した。井戸枠の痕跡は確認できなかった。土師器、須恵器、瓦器、瓦、金属製品が出土した。室町時代初頭のものと考えられる。

井戸100（図版７）　調査区北西部で検出した。隣接する井戸125を削平して成立する。また井戸125・井戸100ともに後世の攪乱により上部が失われている。掘形の平面形は方形で、検出規模は東西約1.6ｍ、南北約1.8ｍである。底面は重機による断割調査で標高27.4ｍで確認した。井戸枠の痕跡は確認できなかった。土師器などの小片が出土した。室町時代のものと考えられる。

井戸125（図版７）　調査区北西部で検出した。隣接する井戸100に削平される。掘形の平面形は方形で、検出規模は東西約2.7ｍ、南北約2.4ｍである。底面は重機による断割調査で標高27.6ｍで確認した。井戸枠の痕跡は確認できなかった。遺物の出土は少なく、小片のみである。。室町時代のものと考えられる。

（６）江戸時代の遺構（図版１・18）

室84（図版８・22）　調査区西側で検出した。平面形はやや歪な隅丸長方形で、東西約3.2ｍ、南北約4.1ｍ、深さは約0.9ｍある。南辺中央が一部窪み、壁面に段差が付くことから、入り口とみられる。床面には固く締まる粘質シルト（断面14層）が部分的に残り、床を貼っていた可能性がある。床面で井戸93を検出した。埋土から土師器や施釉陶器が出土した。江戸時代前半のものと考えられる。

井戸93（図版８・22）　室84床面で検出した。円形石組井戸である。掘形の平面形は楕円形で、東西約1.3ｍ、南北約1.6ｍ、深さは約0.9ｍある。底面の標高は28.1ｍである。石組は２段になっており、内径は上部が約0.7ｍ、下部が約0.4ｍある。上部は人頭大の石材を使用し、下部は拳大の比較的小さな礫を使用している。石組内部は瓦が詰まった状態であった。

井戸2108（図13、図版21）　調査区南東側東壁付近で検出した。掘形の平面形は円形で、径約1.6ｍである。底面は重機による断割調査で標高27.33ｍで確認した。井戸枠材は出土しなかったが、断面観察で円形の井戸枠の痕跡を確認した。埋土に漆喰が混じり込んでいる状況から江戸時代後半以降のものと考えられる。

図13　井戸2108、室2044実測図（１：50）

（７）近現代の遺構（図版１・18）

土坑20　調査区北側中央よりやや西で検出した。平面形は歪な方形を呈し、東西約1.5ｍ、南北約2.0ｍである。一朱銀をはじめ、明治初頭から現代の遺物が出土した。また、卍が意匠化された２脚の湯飲みや、「多」という文字が墨書された急須などが出土しており、多門院と土地とのかかわりを示すものと考えられる。

室2044（図13）　調査区北東部で検出した。平面形は長方形で、東西約1.9ｍ、南北約2.3ｍ、深さは約0.75ｍである。断面図２層と３層の境で木質を検出したことから板敷室と考えられる。大正年間の銅貨が出土しており、少なくとも大正時代までは機能していたものと考えられる。

井戸2050　室2044の北東隅を削平する形で検出した。掘形の平面形は円形で、径約0.9ｍある。底面は標高28.4ｍで確認した。井戸枠の痕跡は確認できなかった。土製品（人形）が出土した。大正時代以降のものと考えられる。

４．遺　　物

（１）遺物の概要

今回の調査では、平安時代から近代に至るまでの遺物が遺物整理用コンテナ95箱分出土した。量的には鎌倉時代の遺物が多くを占める。種類は、土器類、瓦類、石製品、金属製品、銭貨がある。なお、当該地に1960年代まで本圀寺の塔頭が存在したことから近代遺物も一部取り上げた。

土器類は平安時代から近現代のものが出土したが、平安時代のものは少なく、小片が多い。江戸時代後半以降の土器類には茶道に関わる物が多くみられる。

瓦類は平安時代後期から近現代のものが出土した。軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・道具瓦などがある。室町時代から江戸時代のものが大半を占める。

（２）土器類（付表１）

１）平安時代

土坑2107出土土器（図版９　１～９）　土師器・瓦器・山茶椀・輸入白磁が出土した。１～６は土師器皿N[1)]である。口径は8.8～14.4cmである。いずれも平安時代後期（５Ｂ段階）のものである。７は瓦器の皿である。小片のため、口径の復元はできなかった。８は山茶椀の椀である。器壁内面には降灰が認められる。底部には糸切り痕がある。９は輸入白磁の椀口縁部である。小片のため、口径の復元はできなかった。

表２　遺物概要表

時　代	内　　容	コンテナ箱数	Ａランク点数	Ｂランク箱数	Ｃランク箱数
平安時代	土師器、瓦器、山茶椀、輸入陶磁器、瓦		土師器９点、瓦器１点、山茶椀１点、輸入白磁１点、瓦１点		
鎌倉時代	土師器、須恵器、瓦器、焼締陶器、土製品、瓦、石製品、銭貨		土師器55点、須恵器１点、瓦器４点、焼締陶器３点、瓦２点、石製品２点、銭貨３		
室町時代	土師器、須恵器、瓦器、焼締陶器、輸入陶磁器、土製品、瓦、石製品		土師器69点、須恵器２点、瓦器４点、焼締陶器１点、輸入陶器２点、瓦７点、石製品１点		
江戸時代	土師器、焼締陶器、施釉陶器、軟質施釉陶器、染付、土製品、瓦、石製品、金属製品、銭貨		土師器31点、焼締陶器２点、施釉陶器５点、軟質施釉陶器１点、染付１点、土製品１点、瓦16点、石製品５点、金属製品４点、銭貨３点		
近代以降	土師器、焼締陶器、施釉陶器、磁器、染付、土製品、瓦、石製品、金属製品、銭貨		土師器１点、焼締陶器１点、施釉陶器11点、磁器４点、染付８点、土製品１点、瓦３点、石製品１点、金属製品１点、銭貨４点		
合　計		107箱	273点（11箱）	１箱	95箱

※　コンテナ箱数の合計は、整理後、Ａランクの遺物を抽出したため、出土時より12箱多くなっている。

柱穴2008（掘立柱建物１）出土土器（図版９　10～12）　土師器が出土した。10～12は土師器皿Ｎである。口径は9.6～10.8㎝である。平安時代後期（５Ｂ段階）のものと考えられる。

２）鎌倉時代

土坑2119出土土器（図版９　13～18）　土師器が出土した。13～18は土師器皿Ｎである。口径は8.8～13.6㎝である。いずれも鎌倉時代（６Ｂ～６Ｃ段階）のものと考えられる。

土坑124出土土器（図版９・23　19～39）　土師器が出土した。19～37は土師器皿Ｎである。口径は7.7～12.8㎝である。38・39は土師器皿Ｓである。口径は10.6と12.8㎝である。鎌倉時代（６Ｂ～６Ｃ段階）のものと考えられる。

土坑2120出土土器（図版９　40）　土師器が出土した。40は土師器皿Ｎである。口径は12.6㎝である。鎌倉時代（６Ｃ段階）のものと考えられる。

井戸80出土土器（図版９　41～45）　土師器・瓦器・焼締陶器が出土した。41・42は土師器皿Acである。口径は5.0と5.2㎝である。43は土師器皿Ｎである。口径は8.3㎝である。鎌倉時代（６Ｃ～７Ａ段階）のものと考えられる。44は焼締陶器甕である。常滑産。45は瓦器の鉢である。

井戸2161出土土器（図版９　46～76）　土師器・須恵器・瓦器・焼締陶器が出土した。46・47は土師器皿Acである。口径は7.2と7.6㎝である。48～69は土師器皿Ｎである。口径は8.0～14.4㎝である。70は土師器皿Ｓである。口径は11.1㎝である。鎌倉時代（６Ｃ～７Ａ段階）のものと考えられる。71は須恵器の鉢である。72～74は瓦器で、72は皿、73は羽釜、74は火鉢である。75・76は常滑産の焼締陶器甕である。

３）室町時代

井戸55出土土器（図版10　77～84）　土師器・須恵器・瓦器・輸入陶器が出土した。77～79は土師器皿Ｎである。いずれも細片のため口径は不明。鎌倉時代から室町時代（７段階）のものと考えられる。80は東播系の須恵器鉢である。81・82は瓦器で、81は鍋、82は羽釜である。83・84は輸入陶器の壷である。84は把手部分で全体に褐釉がかかっている。

井戸2110出土土器（図版10　85～88）　土師器・須恵器・瓦器が出土した。85・86は土師器の鉢である。内面に煤が付着し、平滑になっている。採煙土器とみられる。87は瓦器の羽釜である。88は東播系の須恵器鉢である。

土坑114出土土器（図版10・23　89～137）　土師器皿がまとまって出土した。89～121は土師器皿Ｎである。口径は7.8～11.9㎝である。122～130は土師器皿Shである。口径は6.6～7.2㎝である。131～137は土師器皿Ｓである。口径は11.2～14.0㎝である。鎌倉時代末から室町時代（７Ｃ～８Ａ段階）のものと考えられる。

土坑98出土土器（図版10　138～143）　土師器・土製品が出土した。138は土師器皿Shである。口径は6.4㎝。139～142は土師器皿Ｓである。口径は10.4～15.8㎝である。室町時代（８Ａ段階）のものと考えられる。143は土製品のミニチュア鍋である。片口が付く。

土坑99出土土器（図版10　144～150）　土師器・瓦器が出土した。144は土師器皿Ｎである。口径は9.7㎝である。145～147は土師器皿Shである。口径は6.7～7.1㎝である。148・149は土師器

皿Ｓである。口径は13.7と13.8㎝である。室町時代（８Ａ段階）のものと考えられる。150は瓦器の羽釜である。

土坑122出土土器（図版11　151）　焼締陶器が出土した。151は焼締陶器甕の底部から体部にかけてである。備前産と考えられる。

井戸100出土土器（図版11　152・153）　土師器が出土した。152は土師器皿Ｎである。口径は7.8㎝。室町時代（９段階）のものと考えられる。153は土師器鍋である。

４）江戸時代

近世整地層出土土器（図版11　154～175）　土師器・焼締陶器・軟質施釉陶器・施釉陶器が出土した。154～156は土師器皿Ｎである。口径は5.0～7.2㎝である。157～167は土師器皿Ｓである。口径は9.3～12.2㎝である。江戸時代初期（10Ｃ～11Ａ段階）のものと考えられる。168・169は塩壷の蓋と塩壷である。170は焼締陶器の壷である。171は軟質施釉陶器の椀である。内面に施釉される。172～175は施釉陶器である。志野焼で172は猪口、173～175は向付である。

室84出土土器（図版11　176～191）　土師器・施釉陶器が出土した。176～182は土師器皿Ｎである。口径は5.1～6.1㎝である。183～189は土師器皿Ｓである。口径は9.6～14.0㎝である。江戸時代前期（11段階）のものと考えられる。190は塩壷である。191は施釉陶器の猪口である。全体に施釉される。志野焼。

井戸2108出土土器（図版11　192・193）　焼締陶器・染付が出土した。192は焼締陶器の甕底部である。193は染付の皿である。

５）近現代

土坑20出土土器（図版12・13・23　194～218）　土師器・施釉陶器・磁器・染付・焼締陶器が出土した。194は土師器皿Ｓである。口径は10.8㎝。195～203は施釉陶器である。195～197は灯明皿、198は皿、199は蓋、200は猪口、201は灯火具、202は土瓶、203は火鉢である。204～207は磁器である。204は小杯で、内面に「ほり川／□□□／□□」の文字が描かれる。205は椀、206は蓋である。207は色絵磁器の椀である。208～214は染付である。208は蓋、209～211は椀、212は仏飯具、213は皿、214は壷である。215は染付陶器の皿である。216・217は施釉陶器の急須である。216は表面に墨書があり、「多」の文字などが確認できる。218は焼締陶器の炉である。涼炉と考えられる。上部や内部を欠損するが、舌出し形の風門が残存する。

６）土製品（図版13・23）

土１は近世整地層から出土した。施釉陶器で、白色の長石釉がかかる。口と背に穴が開き、猪をかたどった水滴と考えられる。土２は井戸2050から出土した土人形である。施釉陶器で、黄～緑色の釉薬がかかる。獅子または狛犬と考えられる。

（３）瓦類（付表２）

平安時代から江戸時代の瓦が出土した。軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・道具瓦などがある。

軒丸瓦（図版14・15・24　瓦１～16）　瓦１は右巻三巴文軒丸瓦で、平安時代後期の山城産の軒丸瓦である。玉縁に釘穴がある。丸瓦部凸面にヘラ記号を施す。瓦２は左巻三巴文軒丸瓦である。鎌倉時代のものと考えられる。瓦３～６は室町時代の右巻三巴文軒丸瓦で、瓦３～５は同笵、瓦６はそれらと同文である。瓦７～16は江戸時代の右巻三巴文軒丸瓦である。瓦11・12は同笵である。

軒平瓦（図版15　瓦17～20）　瓦17～20は唐草文軒平瓦である。瓦17は播磨の林崎三本松瓦窯産で鎌倉時代初頭のものと考えられる。瓦18は室町時代から安土桃山時代、瓦19は安土桃山時代から江戸時代初頭、瓦20は江戸時代のものと考えられる

丸瓦（図版15　瓦21・22）　瓦21はほぼ完形の丸瓦である。凹面に吊り紐痕が認められる。瓦22は凸面側に「岸泉仁」という刻印が認められる。また、凹面には12条の櫛描線を間隔をあけて施している。

道具瓦（図版16　瓦23～27）　瓦23は凹弁十六弁一重菊の菊丸瓦である。瓦24は右巻三巴文の鳥衾である。瓦25は飾り瓦である。元の形状は不明だが、上下長辺中央部に剥離痕があり、十字に接合する部分であったものと考えられる。天面には線刻がなされている。瓦26も飾り瓦と考えられる。瓦27は鬼瓦である。型成形である。

塼（図版16　瓦28・29）　瓦28・29は土製品の塼で、瓦28は有孔塼である。

（４）石製品（図版17・24、付表３）

滑石製石鍋が７点、硯が１点、砥石が１点出土した。

石１～７は滑石製石鍋である。石３の内面には菊花の線彫りが施されている。転用品の可能性がある。石５は破面に加工がみられ、石６は穿孔があることから温石に転用されたと考えられる。石８は小型の硯である。石９は砥石である。穿孔がある。

（５）金属製品・銭貨（図版17・24、付表４・５）

金属製品（金１～５）　金１・２は煙管の雁首である。ともに近世整地層から出土した。金３～５は煙管の吸口である。金３は近世整地層、金４は井戸2108、金５は井戸2050から出土した。

銭貨（銭１～10）　８種10枚が出土した。内訳は北宋銭５種、寛永通寶、一朱銀、五厘銅貨である[2)]。

銭１は「咸平元寶」で初鋳は998年である。銭２は「天禧通寶」で初鋳は1017年である。銭３は「嘉祐元寶」で初鋳は1056年である。銭４は楷書体の「熙寧元寶」で初鋳は1068年である。銭５は篆書体の「熙寧元寶」である。銭６・７は篆書体の「元豊通寶」で初鋳は1078年である。銭８は「寛永通寶」である。いわゆる新寛永と呼ばれるもので、初鋳は1697年である。銭９は嘉永一朱銀で初鋳は1853年である。銭10は大正７年の五厘銅貨である。

註

1） 土師器の形式・年代は、平尾政幸「土師器再考」『洛史　研究紀要　第12号』 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2019年に準拠する。

750年　840年　930年　1020年　1110年　1170年　1260年　1350年　1410年　1500年　1590年　1680年　1740年　1800年　1860年

1			2			3			4			5		6			7			8		9			10			11			12		13		14	
A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	A	B	C	A	B	C	A	B	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	A	B	A	B

土師器以外の土器・陶磁器の形式・年代については、日本中世土器研究会編『新版　概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社　2022年を参考にした。

2） 銭貨については、永井久美男編『中世の出土銭－出土銭の調査と分類－』 兵庫埋蔵銭調査会　1994年、永井久美男編『近世の出土銭Ⅱ－分類図版篇－』 兵庫埋蔵銭調査会　1998年を参考にした。

５．まとめ

本調査地は平安京左京六条二坊七町に所在する。今回の調査では、平安時代、鎌倉時代、室町時代、江戸時代、近現代の各時期の遺構を検出した。以下にその変遷を述べる（図14）。

平安時代の主な遺構には、掘立柱建物１・２、柱穴列６・７、土坑2107がある。このうち、掘立柱建物２と柱穴列６・７は柱穴規模や出土遺物から平安時代前期から中期、掘立柱建物１と土坑2107は平安時代後期の遺構と考えられる。鎌倉時代の主な遺構には、柱穴列10、井戸80・2161、土坑124・2119・2120・2121・2251がある。土坑124・2119は土器溜状の遺構である。平安時代から鎌倉時代にかけて左京六条二坊内の各町に邸宅や離宮が存在したことは史料から知ることができる[1)]。平安時代中期以降、清和源氏に関わる邸宅が多く見受けられ、また、平安時代中期には宇多天皇皇女孚子内親王の御所「桂宮」や後三条天皇皇女俊子親王の「樋口堀川宮」、平安時代末期には藤原基通の「猪熊殿」や後白河法皇の「六条殿」が存在した。調査地である七町が直接記載された史料は確認できないが、今回の調査で平安時代から鎌倉時代の遺構・遺物が出土したことから、関連が窺える。

室町時代の主な遺構には集石遺構2249、井戸55・100・125・2110、土坑114などがある。また、部分的にではあるが、室町時代のものと考えられる整地層を確認した。この整地層上面で成立する集石2249や土坑114から出土する遺物の年代観が14世紀中葉の室町時代初頭に求められることから、整地の時期はそれ以前と考えられる。本圀寺が当地に移転してきたのが貞和元年（1345）とされており[2)]、本圀寺移転に伴う整地が行われた可能性がある。また、本圀寺については、鎌倉より移転するにあたって、周辺12町が寺院境内として与えられたことが『山城名勝志』五巻所収の院宣から窺える。その院宣については後世の作成の可能性があり、移転当初から12町の範囲を与えられていたかは定かではないとの指摘もある[3)]が、少なくとも絵図や資料が残る安土桃山時代から1960年代に山科へ移転するまで当地は寺院境内であった。今回の調査で室町時代の瓦が一定数出土していることから、正確な時期は不明なものの、瓦の年代から少なくとも室町時代の後半までには寺院境内として変容し、1960年代まで存続したものとみられ、今回検出した室町時代の遺構は、本圀寺に関連する遺構を含む可能性が高いと言える。

江戸時代の遺構は、江戸時代前期のものと後半以降のものに分けられる。江戸時代前期のものには室84、井戸93がある。後半のものに井戸2108がある。井戸93は地下室である室84の床面に構築されており、一連の遺構と考えられる。このような構造は類例が少なく注目される。また、調査区北西部では、部分的に安土桃山から江戸時代初頭の遺物を含む整地層を確認した。室94と井戸93は出土遺物の年代観から、この整地層上面で成立していた可能性が高く、この時期に本圀寺内での土地利用に変化があった可能性が考えられる。

近現代の以降には、井戸2050、室2044、土坑20のほか、土取り土坑群がある。本圀寺及びその塔頭は天明８年（1788）の大火で多くが罹災・焼失しており、その後境内で塔頭の配置が大きく変わる[4)]。江戸時代後半以降、昭和26年（1951）の都市計画地図まで当該地に所在が確認できる塔頭

図14　遺構変遷図（1：300）

「多門院」は、寛政３年（1791）に天明の大火前の境内の様子を描いたとされる『本圀寺境内廻り内地坪数並びに諸建物間数坪数書付図[5]』、明確な作成時期は不明であるが江戸時代後半に描かれた『本圀寺惣境内図[6]』で確認すると、天明の大火以降、明治４年（1871）までの間に本圀寺西総門付近にあったものが移転したものである。内部の詳しい建物配置は定かではないが、今回の調査で近現代の室や井戸・土取り土坑を検出し、境内で土地利用の一端を明らかにすることができたことは成果である。

註

１）「醒泉学区」『史料 京都の歴史第12巻　下京区』 學藝書林　1971年
山田邦和「第三章 左京と右京　左京六条二坊」『平安京提要』 角川書店　1994年

２）『日本歴史地名大系第27巻　京都市の地名』 平凡社　1979年の「柿本町」と「本圀寺跡」、「醒泉学区」『史料 京都の歴史第12巻　下京区』 學藝書林　1971年を参照した。

３）「醒泉学区」『史料 京都の歴史第12巻　下京区』 學藝書林　1971年

４）櫻井敏雄・長池秀崇・青柳慶賢「洛中本圀寺の子院（塔頭）の構成について」『平成13年度日本建築学会近畿支部研究報告書・計画系　41号』 日本建築学会近畿支部　2001年

５）前掲註４文献の図１を参照した。

６）江戸時代後半に描かれたとされる京都文化博物館所蔵の『本圀寺惣境内図』を実見した。

付表１　土器類観察表

番号	器種	器形	遺構･層名	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	色調	備考
1	土師器	皿N	土坑2107	9.3	－	1.7	5/6	7.5YR7/4	
2	土師器	皿N	土坑2107	9.2	－	1.3	1/2	7.5YR7/4	
3	土師器	皿N	土坑2107	9.2	－	1.5	1/3	7.5YR7/3	
4	土師器	皿N	土坑2107	9.4	－	1.5	1/2	7.5YR7/3	
5	土師器	皿N	土坑2107	8.8	－	1.7	1/4	7.5YR7/3	
6	土師器	皿N	土坑2107	14.4	－	2.7	1/4	10YR8/2	
7	瓦器	皿Ac	土坑2107	－	－	1.0	1/9	2.5Y7/1	
8	山茶椀	椀	土坑2107	15.6	8.0	5.3	2/9	2.5Y7/1	
9	白磁	椀	土坑2107	－	－	(3.7)	1/9	10YR7/2	
10	土師器	皿N	柱穴2008	9.6	－	1.8	1/1	5YR7/4	掘立柱建物1
11	土師器	皿N	柱穴2008	10.2	－	1.6	1/4	7.5YR8/4	掘立柱建物1
12	土師器	皿N	柱穴2008	10.8	－	2.1	1/3	10YR6/3	掘立柱建物1
13	土師器	皿N	土坑2119	8.8	－	1.5	1/1	7.5YR8/3	
14	土師器	皿N	土坑2119	12.6	－	2.6	1/1	7.5YR7/4	
15	土師器	皿N	土坑2119	12.8	－	2.5	1/1	7.5YR7/4	
16	土師器	皿N	土坑2119	12.9	－	2.4	1/1	7.5YR7/3	
17	土師器	皿N	土坑2119	13.6	－	2.3	1/1	7.5YR7/4	
18	土師器	皿N	土坑2119	13.6	－	3.1	1/3	7.5YR7/4	
19	土師器	皿N	土坑124	7.7	－	1.4	3/4	7.5YR8/3	
20	土師器	皿N	土坑124	8.0	－	1.3	5/6	7.5YR8/3	
21	土師器	皿N	土坑124	7.9	－	1.3	6/7	7.5YR7/4	
22	土師器	皿N	土坑124	8.2	－	1.6	1/2	7.5YR7/4	
23	土師器	皿N	土坑124	8.0	－	1.5	1/1	10YR7/4	
24	土師器	皿N	土坑124	8.0	－	1.4	1/1	7.5YR7/3	
25	土師器	皿N	土坑124	8.1	－	1.6	1/1	7.5YR7/4	
26	土師器	皿N	土坑124	8.2	－	1.6	5/6	10YR7/2	
27	土師器	皿N	土坑124	8.2	－	1.6	1/1	7.5YR8/3	
28	土師器	皿N	土坑124	8.4	－	1.3	1/1	7.5YR7/4	
29	土師器	皿N	土坑124	8.4	－	1.4	1/1	10YR8/3	
30	土師器	皿N	土坑124	8.4	－	1.5	1/1	7.5YR8/3	
31	土師器	皿N	土坑124	8.4	－	1.5	1/1	7.5YR8/3	
32	土師器	皿N	土坑124	12.0	－	2.3	1/1	10YR7/3	
33	土師器	皿N	土坑124	12.1	－	2.3	5/6	7.5YR7/4	
34	土師器	皿N	土坑124	12.2	－	2.3	8/9	10YR7/3	
35	土師器	皿N	土坑124	12.4	－	2.3	1/1	7.5YR7/4	
36	土師器	皿N	土坑124	12.7	－	2.5	5/6	10YR7/3	
37	土師器	皿N	土坑124	12.8	－	2.4	1/1	10YR7/4	
38	土師器	皿S	土坑124	10.6	－	3.0	1/1	10YR8/1	
39	土師器	皿S	土坑124	12.8	－	3.1	1/1	10YR8/2	
40	土師器	皿N	土坑2120	12.6	－	2.4	1/2	10YR7/4	
41	土師器	皿Ac	井戸80	5.0	－	1.2	1/3	10YR8/2	
42	土師器	皿Ac	井戸80	5.2	－	1.2	1/1	10YR8/1	
43	土師器	皿N	井戸80	8.6	－	(1.3)	1/4	10YR6/3	
44	焼締陶器	甕	井戸80	－	－	(9.7)	1/18	2.5YR4/3	
45	瓦器	火鉢	井戸80	－	－	(7.0)	1/12	2.5Y4/1	
46	土師器	皿Ac	井戸2161	7.2	－	1.1	1/5	7.5YR6/6	

※(　)は残存値

番号	器種	器形	遺構・層名	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	色調	備考
47	土師器	皿Ac	井戸2161	7.6	-	1.2	1/5	7.5YR6/4	
48	土師器	皿N	井戸2161	8.0	-	1.5	1/4	7.5YR7/3	
49	土師器	皿N	井戸2161	8.4	-	1.3	1/3	7.5YR7/4	
50	土師器	皿N	井戸2161	8.4	-	1.5	7/12	7.5YR6/4	
51	土師器	皿N	井戸2161	8.6	-	1.5	1/2	7.5YR7/3	
52	土師器	皿N	井戸2161	8.6	-	1.5	1/4	7.5YR6/4	
53	土師器	皿N	井戸2161	8.8	-	1.3	1/4	7.5YR6/4	
54	土師器	皿N	井戸2161	8.8	-	1.5	1/4	7.5YR6/4	
55	土師器	皿N	井戸2161	8.8	-	1.4	1/3	7.5YR7/3	
56	土師器	皿N	井戸2161	8.8	-	1.6	1/4	7.5YR6/4	
57	土師器	皿N	井戸2161	8.8	-	1.5	7/12	7.5YR7/4	
58	土師器	皿N	井戸2161	9.0	-	1.5	1/3	7.5YR6/2	
59	土師器	皿N	井戸2161	9.0	-	1.4	1/4	7.5YR6/4	
60	土師器	皿N	井戸2161	9.0	-	1.2	1/2	7.5YR7/4	
61	土師器	皿N	井戸2161	9.4	-	1.4	1/3	7.5YR7/4	
62	土師器	皿N	井戸2161	12.6	-	2.1	1/4	10YR7/3	
63	土師器	皿N	井戸2161	13.4	-	2.2	1/3	7.5YR7/4	
64	土師器	皿N	井戸2161	13.4	-	2.2	5/12	7.5YR7/4	
65	土師器	皿N	井戸2161	13.8	-	2.0	1/4	7.5YR7/4	
66	土師器	皿N	井戸2161	14.4	-	2.4	1/5	7.5YR7/4	
67	土師器	皿N	井戸2161	12.4	-	2.5	1/5	7.5YR7/4	
68	土師器	皿N	井戸2161	12.6	-	2.6	1/5	7.5YR7/3	
69	土師器	皿N	井戸2161	14.0	-	(2.7)	1/4	7.5YR7/4	
70	土師器	皿S	井戸2161	11.1	-	2.9	8/9	10YR8/2	
71	須恵器	鉢	井戸2161	-	-	(10.7)	1/12	5Y7/1	
72	瓦器	皿	井戸2161	8.8	-	1.9	1/1	N5/0	
73	瓦器	羽釜	井戸2161	-	-	(3.7)	1/9	N5/0	
74	瓦器	火鉢	井戸2161	-	-	(10.5)	1/6	2.5GY3/1	
75	焼締陶器	甕	井戸2161	-	-	(5.5)	1/9	5YR4/2	
76	焼締陶器	甕	井戸2161	-	-	(10.3)	1/18	2.5Y4/1	
77	土師器	皿N	井戸55	-	-	2.3	1/9	7.5YR7/3	
78	土師器	皿N	井戸55	-	-	(1.8)	1/9	7.5YR7/4	
79	土師器	皿N	井戸55	-	-	(1.9)	1/7	7.5YR7/4	
80	須恵器	鉢	井戸55	-	-	(4.3)	1/18	5Y7/1	
81	瓦器	鍋	井戸55	-	-	(3.0)	1/7	5Y4/1	
82	瓦器	羽釜	井戸55	19.0	-	(3.3)	1/6	5Y5/1	
83	輸入陶器	壷	井戸55	-	-	(4.0)	1/36	7.5YR6/3	
84	輸入陶器	壷	井戸55	-	-	(5.5)		7.5YR6/4	
85	土師器	小鉢	井戸2110	-	-	-	1/9	7.5YR6/8	10YR3/1煤
86	土師器	小鉢	井戸2110	9.2	-	(5.6)	1/5	7.5YR6/8	10YR4/1煤
87	瓦器	羽釜	井戸2110	-	-	(4.0)	1/11	10YR4/1	
88	須恵器	鉢	井戸2110	-	-	(5.0)	1/6	N6/0	
89	土師器	皿N	土坑114	7.8	-	1.8	1/1	5Y5/1	
90	土師器	皿N	土坑114	7.8	-	1.6	3/5	7.5YR7/4	
91	土師器	皿N	土坑114	7.8	-	1.4	1/3	10YR7/2	
92	土師器	皿N	土坑114	7.9	-	1.6	1/1	7.5YR7/4	

※( )は残存値

番号	器種	器形	遺構・層名	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	色調	備考
93	土師器	皿N	土坑114	7.9	-	1.5	7/9	7.5YR7/4	
94	土師器	皿N	土坑114	7.9	-	1.3	2/3	7.5YR7/4	
95	土師器	皿N	土坑114	8.0	-	1.7	1/1	7.5YR7/4	
96	土師器	皿N	土坑114	8.0	-	1.6	3/4	7.5YR7/4	
97	土師器	皿N	土坑114	8.0	-	1.5	4/5	7.5YR7/4	
98	土師器	皿N	土坑114	8.0	-	1.5	3/4	7.5YR7/4	
99	土師器	皿N	土坑114	8.0	-	1.5	3/5	7.5YR7/4	
100	土師器	皿N	土坑114	8.1	-	1.8	1/2	7.5YR7/4	
101	土師器	皿N	土坑114	8.2	-	1.5	5/6	7.5YR7/4	
102	土師器	皿N	土坑114	8.2	-	1.7	2/3	7.5YR6/4	
103	土師器	皿N	土坑114	8.4	-	1.8	1/3	7.5YR7/3	
104	土師器	皿N	土坑114	9.5	-	2.4	4/5	7.5YR7/3	
105	土師器	皿N	土坑114	10.5	-	2.2	7/12	7.5YR8/4	
106	土師器	皿N	土坑114	10.6	-	2.3	1/3	10YR7/4	
107	土師器	皿N	土坑114	10.7	-	2.2	1/1	7.5YR7/4	
108	土師器	皿N	土坑114	10.8	-	2.3	3/5	7.5YR7/4	
109	土師器	皿N	土坑114	10.8	-	2.2	1/3	5YR6/6	
110	土師器	皿N	土坑114	10.8	-	2.2	1/2	7.5YR7/4	
111	土師器	皿N	土坑114	10.9	-	2.2	1/2	7.5YR7/4	
112	土師器	皿N	土坑114	10.9	-	2.4	1/1	7.5YR7/3	
113	土師器	皿N	土坑114	10.9	-	2.4	3/4	7.5YR7/4	
114	土師器	皿N	土坑114	11.0	-	2.3	1/2	7.5YR7/6	
115	土師器	皿N	土坑114	11.0	-	2.4	5/6	7.5YR7/4	
116	土師器	皿N	土坑114	11.0	-	2.3	1/2	7.5YR7/4	
117	土師器	皿N	土坑114	11.0	-	2.5	5/6	7.5YR7/6	
118	土師器	皿N	土坑114	11.2	-	2.0	3/5	7.5YR7/6	
119	土師器	皿N	土坑114	11.2	-	2.0	1/2	5YR6/6	
120	土師器	皿N	土坑114	11.4	-	2.2	1/1	7.5YR7/4	
121	土師器	皿N	土坑114	11.4	-	2.3	1/1	7.5YR7/4	
122	土師器	皿Sh	土坑114	6.6	-	1.8	1/1	7.5YR8/3	
123	土師器	皿Sh	土坑114	6.6	-	2.0	1/3	10YR8/2	
124	土師器	皿Sh	土坑114	6.7	-	2.0	4/5	7.5YR8/3	
125	土師器	皿Sh	土坑114	6.8	-	2.2	3/5	10YR8/2	
126	土師器	皿Sh	土坑114	6.9	-	2.1	1/1	7.5YR8/3	
127	土師器	皿Sh	土坑114	7.1	-	2.2	1/1	10YR8/2	
128	土師器	皿Sh	土坑114	7.1	-	1.9	2/3	10YR8/2	
129	土師器	皿Sh	土坑114	7.2	-	1.8	2/3	10YR8/2	
130	土師器	皿Sh	土坑114	7.2	-	1.9	2/3	10YR8/2	
131	土師器	皿S	土坑114	11.2	-	3.1	7/12	10YR8/1	
132	土師器	皿S	土坑114	11.4	-	3.3	1/1	10YR8/2	
133	土師器	皿S	土坑114	11.5	-	3.1	5/6	7.5YR8/3	
134	土師器	皿S	土坑114	11.6	-	3.1	1/3	10YR8/2	
135	土師器	皿S	土坑114	11.8	-	3.0	11/12	10YR8/2	
136	土師器	皿S	土坑114	12.0	-	3.0	1/1	2.5Y8/1	
137	土師器	皿S	土坑114	14.0	-	(4.1)	1/4	10YR8/2	
138	土師器	皿Sh	土坑98	6.4	-	1.7	1/3	7.5YR8/4	

※( )は残存値

番号	器種	器形	遺構・層名	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	色調	備考
139	土師器	皿S	土坑98	10.4	－	3.0	1/3	10YR8/2	
140	土師器	皿S	土坑98	11.4	－	3.2	3/4	10YR8/1	
141	土師器	皿S	土坑98	13.2	－	3.4	1/1	7.5YR8/3	
142	土師器	皿S	土坑98	15.8	－	4.7	1/2	7.5YR8/3	
143	土師器	鍋	土坑98	5.0	－	(2.0)	4/9	7.5YR7/6	ミニチュア
144	土師器	皿N	土坑99	9.7	－	2.4	3/4	5YR7/6	
145	土師器	皿Sh	土坑99	6.7	－	2.1	1/1	7.5YR8/4	
146	土師器	皿Sh	土坑99	6.7	－	2.0	1/2	7.5YR8/3	
147	土師器	皿Sh	土坑99	7.1	－	2.0	8/9	7.5YR8/4	
148	土師器	皿S	土坑99	13.7	－	4.0	1/2	7.5YR8/3	
149	土師器	皿S	土坑99	13.8	－	3.6	2/3	7.5YR7/3	
150	瓦器	羽釜	土坑99	－	－	(3.7)	1/11	10Yr4/1	
151	焼締陶器	甕	土坑122	－	44.0	(26.7)	底部4/5	10YR5/2	
152	土師器	皿N	井戸100	7.8	－	2.0	5/12	10YR4/1	
153	土師器	鍋	井戸100	－	－	(4.1)	1/12	10YR3/1	
154	土師器	皿N	近世整地層	5.0	－	0.9	完形	10YR8/3	
155	土師器	皿N	近世整地層	5.8	－	1.3	4/5	10YR7/2	
156	土師器	皿N	近世整地層	7.2	－	1.3	2/5	10YR8/3	
157	土師器	皿	近世整地層	9.3	－	2.0	2/5	10YR7/3～6/1	
158	土師器	皿	近世整地層	9.3	－	2.3	完形	7.5YR8/3	
159	土師器	皿	近世整地層	9.4	－	2.0	2/5	10YR8/3	
160	土師器	皿S	近世整地層	9.8	－	2.0	3/8	7.5YR8/4	
161	土師器	皿S	近世整地層	10.7	－	1.9	2/5	7.5YR8/4	
162	土師器	皿S	近世整地層	10.8	－	2.0	2/5	7.5YR8/4	
163	土師器	皿S	近世整地層	10.9	－	2.0	3/5	7.5YR8/3	
164	土師器	皿S	近世整地層	11.0	－	2.0	3/5	10YR8/3	
165	土師器	皿S	近世整地層	12.0	－	2.0	1/4	7.5YR8/3	
166	土師器	皿S	近世整地層	12.0	－	2.2	2/5	7.5YR8/4	
167	土師器	皿S	近世整地層	12.2	－	2.1	1/4	7.5YR8/4	
168	土師器	塩壷蓋	近世整地層	7.2	－	2.1	11/12	5YR7/4	
169	土師器	塩壷	近世整地層	5.8	－	(7.2)	口縁部1/4	7.5YR8/2	
170	焼締陶器	壷	近世整地層	12.8	12.8	15.4	2/5	5YR5/4	
171	軟質 施釉陶器	椀	近世整地層	－	－	(3.8)	口縁部1/6	胎)7.5YR7/4	釉)a:7.5Y8/1・上絵 緑青 b:N9/0 b:N2/0黒
172	施釉陶器	猪口	近世整地層	6.1	－	3.3	11/12	胎)2.5Y8/2	釉)10YR3/1
173	施釉陶器	向付	近世整地層	14.2	8.6	4.8	4/5	胎)10YR7/2	底裏面輪トチン痕付着 釉)5Y7/1
174	施釉陶器	向付	近世整地層	18.0	－	3.4	2/5	胎)2.5Y8/2	釉)5Y8/1(文様 青)
175	施釉陶器	向付	近世整地層	一辺8.5	5.7	7.3	3/4	胎)2.5Y8/1	釉)5Y8/1
176	土師器	皿N	室84	5.1	－	1.2	1/1	7.5YR7/4	
177	土師器	皿N	室84	5.2	－	1.4	8/9	7.5YR7/4	
178	土師器	皿N	室84	5.3	－	1.4	3/4	7.5YR7/4	
179	土師器	皿N	室84	5.5	－	1.4	5/6	7.5YR7/4	
180	土師器	皿N	室84	6.0	－	1.1	1/1	10YR7/4	
181	土師器	皿N	室84	6.0	－	1.1	1/1	10YR7/4	
182	土師器	皿N	室84	6.1	－	1.0	11/12	7.5YR8/4	
183	土師器	皿S	室84	9.6	－	2.2	3/4	7.5YR7/6	

※( )は残存値

番号	器種	器形	遺構・層名	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	色調	備考
184	土師器	皿S	室84	9.8	－	2.2	5/6	7.5YR7/6	
185	土師器	皿S	室84	9.9	－	2.6	1/2	7.5YR7/6	
186	土師器	皿S	室84	10.8	－	(2.2)	1/4	7.5YR7/4	
187	土師器	皿S	室84	10.8	－	1.9	1/3	7.5YR7/4	
188	土師器	皿S	室84	10.9	－	2.3	1/1	10YR8/4	
189	土師器	皿S	室84	14.0	－	2.5	1/2	7.5YR7/4	
190	土師器	塩壷蓋	室84	6.4	－	1.5	3/4	5YR7/4	
191	施釉陶器	猪口	室84	6.7	2.4	2.9	1/1	10YR8/2	
192	焼締陶器	甕	井戸2108	－	2.0	(9.8)	1/3	5YR4/3	
193	染付	皿	井戸2108	10.8	5.5	2.6	1/4	胎)N8/0	釉)呉須
194	土師器	皿S	土坑20	10.8	－	1.5	2/5	10YR8/3	深い圏線あり
195	施釉陶器	灯明皿	土坑20	6.2	2.6	1.2	11/12	胎)2.5Y8/2	釉)2.5Y8/2
196	施釉陶器	灯明皿	土坑20	6.2	2.6	1.4	4/5	胎)2.5Y8/1	釉)2.5Y8/2
197	施釉陶器	灯明皿	土坑20	7.3	2.6	1.4	完形	胎)2.5Y8/2	内部にトチン痕3箇所あり 釉)2.5Y8/3
198	施釉陶器	皿	土坑20	9.4	1.9	2.6	4/5	胎)5Y8/1	内部にトチン痕3箇所あり 釉)5Y8/2
199	施釉陶器	蓋	土坑20	7.3	－	1.3	完形	胎)2.5Y8/2	釉)2.5Y8/1
200	施釉陶器	猪口	土坑20	5.8	2.7	4.2	9/10	胎)2.5Y8/2	釉)2.5Y8/3
201	施釉陶器	灯火具	土坑20	3.1	2.9	(1.5)	11/12	胎)10YR7/1	釉)7.5YR3/2
202	施釉陶器	土瓶	土坑20	10.1	9.0	11.5	完形	胎)10YR5/2	釉)5Y6/1、白土、鉄釉
203	施釉陶器	火鉢	土坑20	25.4	24.7	8.3	11/12	胎)10YR8/2	内部にトチン痕3箇所あり 釉)2.5Y8/1
204	磁器	小杯	土坑20	6.0	2.7	3.1	4/5	胎)N8/0	「ほり川/□□□/□□」の文字あり　釉)N9/0・青　釉)白・青
205	磁器	椀	土坑20	8.4	3.0	4.5	完形	胎)N9/0	釉)N8/0
206	磁器	蓋	土坑20	7.1	－	1.4	完形	胎)5Y8/1	釉)7.5YR8/2
207	磁器	椀	土坑20	8.6	3.5	5.1	5/6	胎)N8/0	漆継ぎあり　釉)透明釉、 上絵(赤、緑、黒、灰)
208	染付	蓋	土坑20	8.7	－	3.0	3/5	胎)N8/0	釉)呉須
209	染付	椀	土坑20	－	4.2	(1.6)	底部1/1	胎)N8/0	釉)呉須
210	染付	椀	土坑20	8.6	4.3	4.2	1/2	胎)N8/0	卍のデザイン　釉)呉須
211	染付	椀	土坑20	8.8	－	(3.8)	口縁部1/6	胎)N8/0	瀬戸　釉)呉須
212	染付	仏飯具	土坑20	6.7	3.7	6.3	11/12	胎)N8/0	釉)呉須
213	染付	皿	土坑20	11.8	8.0	3.6	完形	胎)N9/0	釉)呉須
214	染付	壷	土坑20	－	7.5	(16.7)	体部3/5	胎)N8/0	釉)呉須
215	染付陶器	皿	土坑20	13.2	6.7	3.5	1/2	胎)5Y8/1	釉)呉須
216	施釉陶器	急須	土坑20	5.8	5.8	7.7	1/3	10YR7/2	墨書あり「多」の文字か
217	施釉陶器	急須	土坑20	6.6	5.7	7.3	完形	2.5Y7/2	
218	焼締陶器	炉	土坑20	15.5	10.5	16.9	7/10	5YR5/3	
土1	土製品	水滴か	近世整地層	長(8.0)	幅(3.6)	(4.7)	1/2	胎)2.5Y8/1	猪か 釉)5Y8/1
土2	土製品	人形	井戸2050	厚2.5	幅3.7	4.9	11/12	胎)10YR8/2	狛犬または獅子 釉)2.5Y7/6、緑

※(　)は残存値

付表２　瓦類観察表

番号	種類	遺構・層名	法量(cm)			瓦当文様	成形技法	備考
			瓦当径・幅	高さ	全長			
瓦1	軒丸瓦	土坑114	10.8		(18.6)	右巻三巴文。 珠文なし。	瓦当裏面:ナデ、丸瓦貼り付け部横ナデ。 丸瓦凹面:布目。 丸瓦凸面:縄目、縦方向ナデ。	丸瓦部凸面にヘラ記号。 玉縁に釘孔。
瓦2	軒丸瓦	近世整地層	10.0		(14.1)	左巻三巴文。 珠文・界線あり。	瓦当裏面:ナデ、丸瓦貼り付け部横ナデ。 丸瓦凹面:布目痕。 丸瓦凸面:縄目後縦ナデ。	丸瓦部凸面にヘラ記号か。
瓦3	軒丸瓦	近世整地層	13.5～13.8		(3.1)	右巻三巴文。 珠文13。界線あり。	瓦当裏面:ナデ、下部は横ナデ。	瓦4・5と同笵。
瓦4	軒丸瓦	土坑7	13.1～13.8		(5.2)	右巻三巴文。 珠文13。界線あり。	瓦当裏面:ナデ、下部は一部面取り、ケズリ後横ナデ。 丸瓦凸部:縦ナデ。	瓦3・5と同笵。 瓦当表面に雲母付着。
瓦5	軒丸瓦	近世整地層	13.7		(8.2)	右巻三巴文。 珠文13。界線あり。	瓦当裏面:ナデ、丸瓦貼り付け部横ナデ。 丸瓦凹面:布目痕、 丸瓦凸面:縦ナデ。	瓦3・4と同笵。
瓦6	軒丸瓦	井戸93	13.8		(16.5)	右巻三巴文。 珠文13。界線あり。	瓦当裏面:ナデ、下部は横ナデ。 丸瓦凹面:糸切後布目。 丸瓦凸面:縦ナデ。	瓦3～5と同文。
瓦7	軒丸瓦	近世整地層	14.4		(10.5)	右巻三巴文。 珠文17。	瓦当裏面:ナデ、丸瓦貼り付け部横ナデ。 瓦当上面:横ケズリ後ナデ。 瓦当下面:一部面取り、横ケズリ後ナデ。 丸瓦凹面:ナデ。 丸瓦凸面:縦ナデ。	瓦当表面にキラコ付着。
瓦8	軒丸瓦	土坑20	復元 14.2か		(15.5)	右巻三巴文。 珠文あり。	瓦当裏面:ナデ。 瓦当上面:横ケズリ。 丸瓦凹面:棒状工具痕。 丸瓦凸面:縦ナデ。	瓦当表面にキラコ付着。
瓦9	軒丸瓦	近世整地層	復元 14.2		(19.8)	右巻三巴文。 珠文あり。	瓦当裏面:ナデ、丸瓦貼り付け部横ナデ。 瓦当上面:面取り横ケズリ後ナデ。 丸瓦凹面:布目痕、釘孔付近に吊紐痕あり。 丸瓦凸面:縦ケズリ後ナデ。	
瓦10	軒丸瓦	近世整地層	復元 14.7		(17.2)	右巻三巴文。 珠文あり。	瓦当裏面:ナデ、丸瓦貼り付け部横ナデ。 瓦当周縁:外側面取り。 丸瓦凹面:布目。 丸瓦凸面:縦ケズリ後ミガキ。	瓦当表面にキラコ付着。
瓦11	軒丸瓦	近世整地層	13.0		(19.7)	右巻三巴文。 珠文16。頭部は離れ、尾は接する。	瓦当裏面:ナデ、丸瓦貼り付け部横ナデ、下部横ナデ。 丸瓦凸面:縦ナデ、瓦当貼り付け時のカキヤブリ痕あり。	瓦12と同笵。
瓦12	軒丸瓦	近世整地層	13.2		(6.1)	右巻三巴文。 珠文16。頭部は離れ、尾は接する。	瓦当裏面:ナデ、丸瓦貼り付け部横ナデ、下部横ナデ。 瓦当上面:横ケズリによる面取り、縦ナデ。	瓦11と同笵。
瓦13	軒丸瓦	近世整地層	14.2		(6.2)	右巻三巴文。 珠文21。頭部は離れ、尾は接する。	瓦当裏面:ナデ、下部は横ナデ。 瓦当上面:端部横ナデ、他は縦ナデ。丸瓦との接合部分にカキヤブリ痕あり。	表面にキラコ付着。
瓦14	軒丸瓦	井戸2108	復元 14.8		(2.0)	右巻三巴文。 珠文あり。	瓦当裏面:ナデ、下部横ナデ。	
瓦15	軒丸瓦	土坑3	復元 16.0		(5.1)	右巻三巴文。 珠文あり。	瓦当裏面:ナデ。 瓦当周縁:外側面取り。	
瓦16	軒丸瓦	近世整地層	復元 16.0か		(3.6)	右巻三巴文。 珠文あり。頭部は離れ、尾は接する。	瓦当裏面:ナデ、下部横ナデ。	

※(　)は残存値

番号	種類	遺構・層名	法量(cm)			瓦当文様	成形技法	備考
			瓦当径・幅	高さ	全長			
瓦17	軒平瓦	井戸93	不明	(9.5)	(3.7)	唐草文。	瓦当裏面:ナデ、下部は横ナデ。	林崎三本松瓦窯産か。
瓦18	軒平瓦	井戸93	23.1	3.8	(29.5)	外行唐草文。 唐草3転。中心文は一葉を中心にして両側に2葉。下部に珠点。	瓦当裏面:ナデ、顎部は横ナデ。 瓦当上面:横ケズリ。 平瓦凹面:布目痕、ナデ。 平瓦凸面:縄目痕、ナデ。 側面:縦ケズリ。	平瓦部に釘孔。
瓦19	軒平瓦	土坑3	復元 13.4	3.8	(3.7)	外行唐草文。 唐草2転。中心文は5葉。下に珠点あり。	瓦当裏面:横ナデ、顎部横ナデ。 瓦当上面:横ナデ。	
瓦20	軒平瓦	井戸93	26.6	4.8	(12.6)	外行唐草文。 唐草1転。中心文は大ぶりな3葉。	瓦当裏面:横ナデ、顎部は横ケズリ後ナデ。 瓦当上面:横ケズリ、面取り。 平瓦凹部:ナデ。 平瓦凸部:ナデ。	
瓦21	丸瓦	井戸93	幅13.8	厚1.9	31.3		凹面:全体に布目、玉縁付近に吊紐痕。 凸面:縄目痕、縦ナデ、玉縁横ナデ。	
瓦22	丸瓦	土坑20	幅(8.0)	厚1.5	(17.1)		凹面:布目痕、櫛によるすべり止め12条あり、間隔をあけて施す。 凸面:縦ナデ、玉縁は横ナデ、刻印あり。	「岸泉仁」銘。玉縁に斜め方向の釘孔あり。
瓦23	菊丸瓦	土坑1	8.5		(1.7)	凹弁十六弁一重菊。中房は凸型。	瓦当裏面:ナデ、下部は横ナデ。 瓦当下面:横ナデ。	
瓦24	鳥衾	近世整地層	14.3		(5.6)	右巻三巴文。 珠文15。	瓦当裏面:ナデ、横ケズリによる面取り。	
瓦25	飾り瓦	井戸93	横12.0	厚(7.1)	(6.6)		全体にナデ、平滑に仕上げる。 他部位との剥離痕あり。	線刻による文様(宝珠か)。
瓦26	飾り瓦	土坑20	復元 横21.5	縦12.0	(2.1)		表面:ナデ、形に沿って内側に線刻。 裏面:ナデ、接合部にカキヤブリ痕。 側面:縦ナデ。	表面にキラコ付着。
瓦27	鬼瓦	井戸93	幅(15.3)	厚(11.0)	(12.1)		全体にナデ。平滑に仕上げる。 文様の一部である沈線はケズリ。	
瓦28	塼	近世整地層	幅17.0	厚4.2	(15.7)		両面・側面:縄目。 残存部中央に穿孔。	
瓦29	塼	集石遺構2249	幅(9.5)	厚3.6	(17.1)		表面・側面:縄目。 裏面:ケズリ後ナデ。	

※( )は残存値

付表３　石製品観察表

番号	器種	遺構・層名	法量(cm)			重量(g)	備考
			長	幅	厚		
石1	石鍋	近世整地層	5.7	6.0	2.5	65.4	
石2	石鍋	撹乱	5.7	4.7	2.4	51.8	
石3	石鍋	近世整地層	4.1	9.2	3.0	100.4	菊花の線彫りあり　転用か
石4	石鍋	近世整地層	5.7	5.6	2.1	68.1	
石5	石鍋	近世整地層	2.8	11.4	3.2	100.3	温石に転用か
石6	石鍋	井戸80	6.9	10.7	4.0	188.1	温石に転用か
石7	石鍋	土坑124	4.6	5.5	1.2	40.8	
石8	硯	土坑99	(5.5)	(4.9)	1.3	48.2	
石9	砥石	井戸2108	(5.8)	3.6	0.7	22.9	穿孔あり

※(　)は残存値

付表４　金属製品観察表

番号	種類	器種	遺構・層名	法量(cm)			重量(g)	備考
				長	幅	厚		
金1	銅製品	煙管雁首	近世整地層	6.6	1.6	2.7	15.2	
金2	銅製品	煙管雁首	近世整地層	4.4	1.4	2.0	8.7	
金3	銅製品	煙管吸口	近世整地層	6.6	0.9	0.9	5.6	
金4	銅製品	煙管吸口	井戸2108	(5.8)	(0.9)	0.6	1.6	
金5	銅製品	煙管吸口	井戸2050	6.5	1.0	1.0	5.9	

※(　)は残存値

付表５　銭貨観察表

番号	種類	遺構・層名	法量(cm)			重量(g)	備考
			縦	横	厚		
銭1	咸平元寶	近世整地層	径2.45	―	0.12	2.45	
銭2	天禧通寶	土坑2251	径2.5	―	0.10	2.6	
銭3	嘉祐元寶	近世整地層	径2.35	―	0.11	1.93	
銭4	熙寧元寶	土坑2251	2.45	(2.4)	0.13	2.4	
銭5	熙寧元寶	柱穴44	径2.35	―	0.17	3.3	
銭6	元豊通寶	撹乱	径2.5	―	0.14	2.6	
銭7	元豊通寶	近世整地層	(2.1)	(2.0)	0.14	1.19	
銭8	寛永通寶	室2044	径2.4	―	0.13	2.4	
銭9	嘉永一朱銀	土坑20	1.55	0.9	0.17	1.9	
銭10	五厘銅貨	室2044	径1.9	―	0.11	2.0	大正七年

※(　)は残存値

図　　版

Y=-22,684
Y=-22,676
Y=-22,668
Y=-22,660
X=-111,264
X=-111,272
X=-111,280
X=-111,288
X=-111,296
井戸100
土坑20
土坑124
土坑122
柱穴列6
柱穴列10
掘立柱建物1
井戸2050
井戸125
土坑3
柱穴44
土坑1
土坑98
井戸2161
室2044
柱穴列7
土坑2107
土坑114
集石遺構2249
土坑99
室84
井戸93
井戸80
土坑2121
土坑2120
土坑2119
井戸2108
井戸55
掘立柱建物2
井戸2110
土坑2251
0
5m

遺構平面図（1：200）

調査区北壁・東壁断面図（1：100）

北壁

1 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質土 φ5cm礫混じる
2 10YR3/1 黒褐色 粘土
3 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質土 φ0.5～1cm礫混じる
4 2.5Y4/2 暗灰黄色 砂質土 φ1cm礫多量に混じる
5 10YR4/2 灰黄褐色 粘質土 遺物・炭化物含む
6 10YR3/3 暗褐色 粘質土 遺物・炭化物含む
7 10YR3/2 黒褐色 粘質土 炭化物混じる
8 10YR3/2 黒褐色 砂質土 φ0.5～2cm礫・土器・炭化物混じる
9 2.5Y3/2 黒褐色 砂質土
10 2.5Y3/2 黒褐色 砂質土
11 10YR4/2 灰黄褐色 砂質土 φ5cm礫混じる
12 10YR4/2 灰黄褐色 砂質土
13 2.5Y3/2 黒褐色 砂質土 炭化物・土器片混じる
江戸時代整地層

14 10YR3/2 黒褐色 粘質土 土器片混じる
15 2.5Y3/2 黒褐色 粘質土
16 2.5Y4/4 オリーブ褐色 砂質土
土坑122

17 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト(土坑120)
18 10YR4/1 褐灰色 粘質土
19 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト 拳大の礫混じる
少量の遺物細片・炭化物を含む
20 10YR4/2 灰黄褐色 シルト φ5cm～拳大の礫を多く含む
遺物細片・炭化物を少量含む
21 10YR3/3 暗褐色 シルト 炭化物・遺物細片含む。
22 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト φ8cm～拳大の礫を多く含む
遺物細片・炭化物を少量含む
23 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 遺物細片含む
24 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 遺物細片混じる
25 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 遺物細片混じる

26 10YR3/2 黒褐色 シルト 遺物細片・炭化物少量混じる
27 10YR3/3 暗褐色 シルト 遺物細片・少量の炭化物を含む
28 10YR3/3 暗褐色 粘質土 炭化物混じる
29 10YR5/1 褐灰色 粘質土
30 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 遺物細片・ウグイス土ブロック混じる
31 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 遺物細片・炭化物少量を含む
ウグイス土ブロック混じる。
32 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 少量の遺物細片・炭化物を含む
ウグイス土ブロック少量混じる
33 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 炭化物・遺物細片含む
34 2.5Y3/2 黒褐色 シルト
室町時代整地層

35 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト 2.5Y8/4淡黄色の粒子を含む
36 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 2.5Y8/4淡黄色の粒子・ごく
少量の炭化物含む
37 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性あり(基盤層)

東壁

1 10YR3/3 暗褐色 シルト 遺物片・炭化物少量含む
2 10YR3/2 黒褐色 シルト 遺物細片・少量の炭化物含む
3 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 遺物片少量含む
4 10YR3/3 暗褐色 シルト 少量の遺物細片・炭化物混じる
江戸時代整地層
5 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 遺物片・炭化物混じる
6 10YR4/4 褐色 シルト
7 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 遺物片・炭化物混じる
8 10YR2/3 黒褐色 シルト 炭化物・遺物細片混じる(井戸2110)
9 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト(室町時代整地層)
10 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 遺物細片・炭化物を含む
11 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 細砂(基盤層)

0 5m

掘立柱建物2

1 10YR5/3 にぶい黄褐色 粘土 2.5Y4/3細砂含む
2 2.5Y4/3 オリーブ褐色 細砂
3 10YR5/2 灰黄褐色 粘土 10YR5/3シルト含む
4 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト
φ1cm程度の10YR5/2粘土ブロック含む
5 10YR5/3 にぶい黄褐色 粘土 10YR5/4シルト含む
6 10YR4/4 褐色 粘土 φ5～15cmの10YR5/2粘土ブロック含む
7 10YR5/2 灰黄褐色 粘土 φ2cm程度の10YR4/4粘土ブロック含む
8 10YR4/4 褐色 細砂 φ2cm程度の10YR4/4粘土ブロック含む
9 10YR5/2 灰黄褐色 粘土 10YR5/6シルト含む
10 10YR5/6 黄褐色 シルト
11 10YR5/8 黄褐色 シルト φ3cm程度の10YR5/2粘土ブロック含む

0 4m

柱穴列6

1 7.5YR4/3 褐色 シルト～細砂 炭化物・焼土多量混
2 10YR3/3 暗褐色 シルト～細砂 炭化物・焼土多量混
3 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト～細砂 炭化物・焼土少量混

柱穴列7

1 10YR7/2 にぶい黄橙色 粘土
2 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 φ1～2cmの10YR7/2粘土ブロック混
3 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土

0 2m

掘立柱建物２、柱穴列６・７実測図（１：80、１：40）

掘立柱建物1

1 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 遺物片・炭化物含む
2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 炭化物・遺物片少量含む
3 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 炭化物・遺物・φ5cm程度の礫含む 土師器重なって出土
4 2.5Y4/4 オリーブ褐色 シルト 炭化物・遺物片少量含む
5 10YR4/2 灰黄褐色 シルト
6 7.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト 遺物片・炭化物少量含む
7 10YR3/3 暗褐色 シルト 遺物片・炭化物少量含む
8 10YR3/4 暗褐色 シルト 遺物片・炭化物ごく少量含む
9 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト 遺物片・炭化物少量含む

柱穴列10

掘立柱建物１、柱穴列10実測図（１：40）

土坑124

1　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト
　土師器片を多く含み炭化物を少量含む

土坑2119

1　10YR5/3 にぶい黄褐色 粘土
　φ1cmの10YR4/2粘土ブロック含む
2　2.5Y4/4 オリーブ褐色 細砂
　φ1cmの10YR5/3粘土ブロック含む

0　1m

井戸80

1　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト
　φ5～10cm程度の礫・少量の土師器片・粘土ブロック含む
2　10YR3/2 黒褐色 シルト　1より粘性強い　φ10cm程度の礫・土師器片少量含む
3　2.5Y4/4 オリーブ褐色 シルト　2.5Y4/2粘土ブロック含む
4　2.5Y3/1 黒褐色 シルト　2.5Y4/1粘土ブロック含む
5　10YR4/3 にぶい黄褐色 中砂　φ2cmの10YR4/1粘土ブロック・φ5cmの礫含む
6　10YR2/1 黒色 粗砂　φ10cm程度の礫・炭化物多量に含む
7　10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土
8　10YR4/4 褐色 粗砂　φ5cm程度の礫含む

井戸2161

1　2.5Y3/2 黒褐色 シルト
　遺物・炭化物・粘土粒を多く含む
2　2.5Y4/3 オリーブ褐色 泥砂
3　10YR3/3 暗褐色 泥砂　遺物細片・炭化物を含む
4　10YR3/2 黒褐色 泥砂　やや粘性あり
5　10YR4/2 灰黄褐色 粘土　粘性が強い
6　10YR3/1 黒褐色 粘土

0　2m

土坑124・2119、井戸80・2161実測図（1：30、1：60）

集石遺構2249

1　10YR5/4 にぶい黄褐色 細砂　φ2～10cm程度の礫を多く含む　炭化物・遺物片含む
2　10YR4/3 にぶい黄褐色 細砂　φ2～10cm程度の礫を多く含む　炭化物・遺物片含む
3　10YR3/2 黒褐色 泥砂　炭化物・遺物細片を多く含む
4　2.5Y5/4 黄褐色 シルト　ウグイス土に類似　炭化物・遺物細片少量含む(室町時代整地層か)
5　10YR3/4 暗褐色 シルト　粘性あり(基盤層)

集石遺構2249

0　2m

土坑114

1　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト　土師器片多量に含む

0　1m

集石遺構2249、土坑114実測図（1：50、1：20）

井戸55

1　10YR3/3 暗褐色 シルト　φ3～5cm程度の礫含む
2　10YR4/1 褐灰色 細砂　炭化物をごく少量含む
3　10YR4/2 灰黄褐色 シルト　炭化物をごく少量含む
4　10YR3/2 黒褐色 細砂　2より多く炭化物・粘土ブロックを含む
5　7.5Y3/2 黒褐色 細砂　粘土ブロックを含む
6　2.5Y4/1 黄灰色 粘土

井戸2110

1　10YR2/3 黒褐色 シルト　遺物片・炭化物を含む
2　2.5Y3/2 黒褐色 シルト　遺物片・炭化物を含む
3　2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 粘土　遺物片・炭化物ごく少量含む
4　2.5Y3/1 黒褐色 シルト　遺物片ごく少量含む
5　2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト
6　2.5Y3/2 黒褐色 シルト　遺物片ごく少量含む
7　2.5Y4/6 オリーブ褐色 粘土　シルト含む
8　2.5Y3/2 黒褐色 粘土
9　2.5Y4/3 オリーブ褐色 粘土
10　2.5Y3/2 黒褐色 粗砂

井戸100・125

井戸55・2110・100・125実測図（1：50、1：80）

1　10YR3/3 暗褐色 シルト　土師器細片・礫・炭化物少量含む
2　10YR2/2 黒褐色 シルト　1より粘性強、土師器細片・拳大礫少量含む
3　10YR3/3 暗褐色 シルト　2より粘性強、土師器片・炭化物含む
4　10YR4/3 にぶい黄褐色 細砂
5　10YR3/3 暗褐色 シルト　粘性の強いブロック・φ5cmの礫少量含む
6　10YR3/3 暗褐色 シルト　拳大の礫含む
7　10YR3/3 暗褐色 細砂　拳大の礫含む
8　10YR3/3 暗褐色 シルト　粘性の強いブロック含む
9　10YR3/3 暗褐色 シルト　粘性強、拳大の礫含む
10　10YR3/3 暗褐色 細砂　やや粘性あり
11　10YR4/2 灰黄褐色 シルト　粘性あり
12　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト
13　10YR4/3 にぶい黄褐色 細砂
14　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト　やや粘質

0　2m

1　10YR4/3 にぶい黄褐色 中砂　やや粘質あり、φ2cm～拳大の礫を含む

0　1m

室84・井戸93実測図（1：50、1：30）

土坑2107
柱穴2008（掘立柱建物1）
土坑2119
土坑124
土坑2120
井戸80
井戸2161
0
20cm

土器実測図１（１：４）

図版10　遺物

井戸55

井戸2110

土坑114

土坑98

土坑99

0　20cm

土器実測図２（１：４）

土坑122

井戸100

近世整地層

室84

井戸2108

土器実測図３（１：４、151のみ１：８）

図版12　遺物

土坑20

土器実測図４（１：４）

土坑20

近世整地層

井戸2050

土器実測図５（１：４）、土製品実測図（１：２）

瓦類拓影及び実測図1（1：4）

瓦類拓影及び実測図2（1：4）

瓦類拓影及び実測図３（１：４）

石製品実測図（１：４）、金属製品実測図・銭貨拓影（１：２、銭９・10のみ１：１）

図版18　遺構

1　調査区東半全景（北西から）

2　調査区西半全景（北から）

1　掘立柱建物２（西から）

2　掘立柱建物１、柱穴列（南西から）

1　土坑124（東から）

2　土坑114（東から）

3　集石遺構2249（南から）

1　土坑98（東から）

2　土坑99（東から）

3　井戸55（北西から）

4　井戸2108（西から）

1　室84（北東から）

2　井戸93（北から）

26

36

130

116

212

209

210

土1

218

出土土器・土製品

瓦3

瓦5

瓦4

瓦6

石3

銭1

銭9

銭4

銭10

出土軒瓦・石製品・銭貨

報　告　書　抄　録

ふ り が な	へいあんきょうさきょうろくじょうにぼうななちょうあと・からすまあやのこうじいせき
書　　名	平安京左京六条二坊七町跡・烏丸綾小路遺跡
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告
シリーズ番号	２０２３－７
編 著 者 名	早見由槻
編 集 機 関	公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所
所　在　地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
発　行　所	公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所
発行年月日	西暦2024年６月30日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安京跡（へいあんきょうあと） 烏丸綾小路遺跡（からすまあやのこうじいせき）	京都市下京区（きょうとししもぎょうく） 五条通堀川（ごじょうどおりほりかわ） 西入柿本町567（にしいるかきもとちょう） 番地（ばんち）　他	26100	1 712	34度 59分 48秒	135度 45分 06秒	2023年６月１日～2023年９月22日	635.5㎡	共同住宅建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京跡 烏丸綾小路遺跡	都城跡 集落跡	平安時代	掘立柱建物、柱穴列	土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器	平安時代から鎌倉時代にかけて柱穴群を検出した。
		鎌倉時代	掘立柱建物、柱穴列、土坑、井戸	土師器、須恵器、瓦器、山茶椀、施釉陶器、焼締陶器、輸入陶磁器	
		室町時代	集石遺構、土坑、井戸	土師器、須恵器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、輸入陶磁器、瓦、石製品、銭貨	
		江戸時代	室、井戸	土師器、塩壷、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、染付、輸入陶磁器、瓦、金属製品、銭貨	
		近代以降	土坑、室、井戸	土師器、施釉陶器、焼締陶器、陶器、磁器、染付、土製品、瓦、金属製品、銭貨	

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　2023-7

平安京左京六条二坊七町跡・烏丸綾小路遺跡

発行日　2024年6月30日

編　集
発　行　公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

住　所　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435　℡ 075-415-0521
http://www.kyoto-arc.or.jp/

印　刷　三星商事印刷株式会社

住　所　京都市上京区七本松通下長者町下る三番町273番
〒602-8358　℡ 075-467-5151